

2018年6月19日発行

---

世界情勢ブリーフィング

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/>

---

■ トランプ大統領、17日に金氏と電話会談か 「直通番号伝えた」(6月15日付ロイター)

<https://jp.reuters.com/article/trump-call-kim-idJPKBN1JB29C>

結局、トランプ大統領は金正恩に電話をかけたのでしょうか。とりあえずツイッターでは何も言ってませんね。

米朝首脳会談については、先週、開催直後にとりあえずのポイントをまとめました。

・「米朝首脳会談」(6/15)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5650>

その後、新たな情報もあり、分析が深まりました。そこで、上記記事で述べた点を前提に、今回、さらに踏み込んだ考察を述べます。

\*\*\*\*\*

米朝首脳会談 (補足)

\*\*\*\*\*

## ●米朝協議の展望

まず気になるのは、トランプと金正恩の間でどれほどの合意があったのか、という点です。

前回の記事で述べたとおり、共同文書は、時間が足りない中で最低限のポイントに絞ってまとめたものとみられます。その証拠にトランプは記者会見で共同文書になかった米韓合同軍事演習の中止等に言及しました。これから、この「口頭の合意」が何だったのか、米朝高官協議の中で徐々に明らかになるとみられます。

次に「段階的な非核化」の意味です。

北朝鮮ほど核開発が進んでいる状況でCVIDを達成するには10年以上かかるともいわれま

す。これは核技術を知る人間を拘束するかなど「検証」の内容やレベルによるのですが、徹底的な検証を目指すのであれば、相当の年数が必要になることは確かです。そうであれば、どこかメルクマールを設けて制裁の解除をせざるを得なくなる・・・とみるのは一つの合理的な考えです。これをもって「段階的」といえば、米朝の間に齟齬はないことになります。

ここで気になるのがポンペオ国務長官の「トランプ政権 1 期目のうちに『非核化』を目指す」という発言。これが一体何なのか分かりませんが（おそらく本人もこれから考えるのでしょう）、2 年半のうちに実現可能な措置であるならば、相当に限定的・部分的なものになるはずでは

また、トランプの言動を見ていると、中間選挙と大統領選挙の前に何らかの成果を求める可能性は極めて高いです。ポンペオの発言もそれを付度したものでしょう。

さらに、北朝鮮も、トランプ政権のうちに制裁解除を実現させたいと考えているはずでは。これまでの政権と比べれば、衝動的で不安定な怖さがあります。しかし、功名心とディール志向というトランプの資質、トップ会談まで応じたことを考えれば、北朝鮮にとってははるかに与しやすい政権といえます。

また、首脳同士が直接に会って話をしたことで、個人的な信頼関係ができたということも軽視できません。

トランプは金正恩の人となりに異常な関心を寄せ、徹底的に研究し、何をすれば彼を惹きつけられるか徹底的に考えたそうです。その一つが前回の記事で紹介したトランプが金正恩に見せた映像作品ですが、これが意外にも結構ウケが良かったらしいです。金正恩のポップカルチャー好きは有名で、何とんでもまだ 30 代の若者。トランプなりに頼りになる年長者の役割を演じることに成功したのかもしれない。

こうなると、お互い早い段階で何らかの「成果」を作りたいという点では一致しています。こうした状況にかんがみると、専門家の間では、何らかの形で制裁の緩和を取引材料にするのでは・・・という懸念が生じつつあります。

ただ、これは一つの可能性に過ぎません。何と言ってもトランプです。軍事オプションの脅しがなくなった今、米国にとって唯一の強みが制裁の継続にあることは十分に分かっており、「ディールの名手」を自認するトランプが簡単にこれを手放すことはないでしょう。会談後の米 ABC のインタビューでも「1 年後には間違いだったと言うかもしれない」と述

べましたが、最後には北朝鮮と決裂しても構わないと割り切っていることが見えます。しかも、ボルトン大統領補佐官など政権内には超強硬派が影響力をもっています。これから一波乱も二波乱もあることは容易に想像できます。

### ●金正恩の「改革」？

もう一つ注目すべきポイントは、北朝鮮に変化が起こっているのではないか・・・という点です。

これは推測ですが、北朝鮮は本気で経済開放路線に舵を切る可能性があります。

もともと中国は北朝鮮に経済開放を求めており、金正恩もそれを望んでいたようです。それができなかったのは先代からの保守派が抵抗したからですが、金正恩は粛清を重ねて権力を集中したとみられます。先軍政治から核開発と経済建設を同時に進める「並進」路線、さらに経済建設に集中する路線への転換、瀬戸際外交から平和攻勢に出たのはその現れでしょう。そして、金正恩の初訪中と米朝首脳会談を成功させ、いよいよ本格的な開放政策に手を付けるのでは・・・と推測されます。

最近の金正恩の外国首脳との接触と海外メディアへの露出は驚くべきものがあります。文在寅とトランプとの会談でも「この若い三代目は大したやつ」という印象を与えました。北朝鮮の声明や国営メディアの報道も明らかに穏健化しています。先代がなし得なかった偉業を達成した今、金正恩は次に目指すべき目標として外部から隔絶した体制からの脱却を本気で考えているのかもしれませんが。

しかし大きな政策転換を成功させるためには外部からの支援が必要です。このため北朝鮮が日本に秋波を送ってくる可能性は十分にあります。中国からの支援も期待できますが、これまでの金正恩の手口は米中を天秤にかけて両国を翻弄するというものでした。同様の手法を日中に仕掛けてくることは大いに考えられます。

日本ができることは、このレバレッジを最大限に生かすことです。拉致問題を条件にするのはもちろん、トランプ（ポンペオ）と十分に連携することも重要です。米朝がこじれる可能性は十分にあるので、その瞬間を狙って高く売りつける（日本の価値を見せつける）という戦術も考えられます。

米朝が「非核化」に向けた合意に舵を切ったことは、軍事リスクを低下させた点では大きな意味があります。しかし、前述のとおり、この合意が「段階的」なものになり、短距離

ミサイルと拉致問題が置き去りにされるリスクは否定できません。この厳しい状況を織り込むと、上記のような戦術を考えなければならない段階に来ています。

### ● 朝鮮戦争の終戦宣言

今回の米朝首脳会談で意外だったのは、朝鮮戦争の終戦に言及がなかったことでした。

この背景は色々考えられますが、一つには、終戦宣言は名目上の話に過ぎないようで、実は現実にも影響を与え得るので、一筋縄にはいかない・・・ということがあります。

まず、終戦となれば、国連軍の存在理由がなくなります。そうすると国連軍に基づくアレンジメントの法的根拠がなくなります。

もちろん、在韓米軍は二国間の安全保障条約に基づいて駐留しているので、それでカバーすれば実体的な影響はありません。しかし、法的枠組みを変更する中で、米国内で駐留米軍の必要性が真剣に議論されることは避けられないでしょう。

さらに、米韓連合司令部の戦時作戦統制権の所在の議論も再燃します。現在、戦時作戦統制権は米軍に付与されています。これは、朝鮮半島で有事が起こると、韓国軍は米軍の指揮下に入ることを意味します。

韓国では、この戦時作戦統制権を米軍から韓国軍に移管すべきという議論があり、盧武鉉政権下で 2012 年に移管するとの合意が締結されました。しかし、李明博政権下で 2015 年 12 月に延期され、朴槿恵政権で無期延期となりました。文在寅は、移管の実現を公約に掲げて当選しました。

終戦となれば、戦時作戦統制権の移管の議論は活発化し、おそらく実現するでしょう。そうなったとき、米国が今の駐留米軍のプレゼンスを維持することは極めて難しくなります。

こうした状況を望んでいない米韓の軍人や安全保障専門家は数多く存在します。このため、終戦宣言は一筋縄にはいかないのです。

さらにいえば、この議論は日本にもあてはまります。在日米軍のアレンジメントの中には国連軍の法的枠組みに基づくものがありますし、また、在韓米軍のあり方が議論されることになれば、そのとき在日米軍のあり方もあわせて検討されることは間違いのないからです。

在韓・在日米軍の撤退はトランプが火をつけたようにも見えますが、カーター政権やブッシュ政権でも真剣に検討されました。今それが朝鮮半島の安保環境の変化により、本格的な潮流として動き出したということです。日本としてはこれを止めたいところですが、難しいかもしれません。ただその撤退のスピードを少しでも緩めて、その間に自衛力の増強を含め、望ましい安全保障環境の実現を目指す他ないでしょう。

さらに思考を先に進めれば、朝鮮半島の統一すらもはや夢物語ではなくなっています。北朝鮮が経済開放を進め、核技術の解体が進めば、一国二制度の枠組みでの統一は現実味を帯びてきます。そのときに米軍のプレゼンスが期待できなければ、日本はどうするのか。米朝首脳会談はここまでの峻厳な現実を日本に突き付けている・・・と言えます。

ちなみに、この状況は中国にとっても微妙です。米軍のプレゼンスの低下はもちろん歓迎すべきものですが、統一朝鮮が中国にとって都合の良い体制になる保証はどこにもありません。むしろ、歴史と地政学にかんがみれば、両国の関係は相互不信と緊張に満ちたものになるとみるのが自然です。

今回の米朝合意も、「最大の勝者は中国」とする見方が目立ちますが、果たしてそこまで単純なものか。私は中国にとってもかなり悩ましい状況と思います。前述のとおり中国は金正恩の積極外交に翻弄されました。米国は北朝鮮を取り込んだとみて、中国に対する「貿易戦争」と「ハイテク戦争」を先鋭化させてきます。今後、北朝鮮はさらに米国と韓国に接近し、しかも日本との関係も動き出すでしょう。これはそのうち別稿で述べます。

#### ●アサド訪朝

最後に、読者の方から、シリアのアサド大統領が訪朝に意欲を示したのは何なのか、という質問がありました。

#### ■ シリアのアサド大統領、初訪朝に意欲＝北朝鮮メディア（6月4日付 BBC）

<http://www.bbc.com/japanese/44351397>

これも推測にすぎませんが、ロシアへのメッセージと思われる。自分（アサド政権）に支援を続けなければ、北朝鮮から武器と技術を手に入れるぞ・・・とシリアから退き気味のロシアに当てこすりをしているのです。

そんなことが実現可能なのかは問題ではありません。実際のところ、アサドに北朝鮮に行く余裕はないでしょう。こういう風に他人の禰で相撲をとるのはシリアや他の中東の国々

らしいやり方です。

\*\*\*\*\*

あとがき

\*\*\*\*\*

今回は要点だけを一気に伝えました。いつもよりさらに専門的で踏み込んだ話になったので、分かりにくかったかもしれません。「ここがよく分からない」というご質問などあれば遠慮なくコメント欄かメールでお聞かせ下さい。

それから、これも何度か書いていますが、正直なところ、北朝鮮問題は何とも言えないところがあります。あまりにも情報が限定され、不確定要素が多いからです。確たることは誰にも言えません。私はそれなりの関係者とも話をする機会がありますが、真相と今後の展開は当事者すら分かっていないのが実情です。

その中で、このメルマガは、もっとも信頼に足る事実とソースを基に、中立公平な視点からあり得る見通しを示しているつもりです。この世界には、合理的な根拠に基づかずに思いつきの憶測を語る人、インパクト狙いで奇説を唱える人が多いので、そこだけは気を付けてください。

---

【発行】 The Gucci Post

(Copyright 2018 グッチーポスト株式会社)

【世界情勢ブリーフィング HP】 <http://guccipost.co.jp/blog/jd/>

【バックナンバー】 <http://guccipost.co.jp/blog/guccipost/?p=395>

【グッチーポスト HP】 <http://guccipost.co.jp/blog/>

【編集部 Facebook】 <https://www.facebook.com/GucciPost/>

【編集部 twitter】 [https://twitter.com/gucci\\_post](https://twitter.com/gucci_post)

【お問い合わせ】 [inquire@guccipost.co.jp](mailto:inquire@guccipost.co.jp)

【内容についての質問・コメント】 [jd.world.briefing@gmail.com](mailto:jd.world.briefing@gmail.com)

※本メルマガの内容は、筆者 JD の個人的な見解であり、グッチーポスト株式会社含めいかなる組織またはグッチー編集長含め他のいかなる個人の見解を代表ないし代理するものではなく、他の個人または組織がその内容に対して責任を負うことはありません。